

### 3) 特殊タイプライター等筋ジストロフィー 症者療育器機開発の基礎的研究

国立療養所宇多野病院

児童指導員 中西 孝

当院において以前より、DMP児による和文タイプライター操作を行なってきたが、前回の報告において、タイプ操作を段階的に分け、そのタイムを測りタイプ操作における問題点を考えてきた。

その結果として、まづ第1にブラテンへの原紙付けの段階において、肘が上がりやすく時間がかかるとの事であった。また第2に、活字の入れ換え段階において、自力で入れ換えは不可能であった。

このような事から、今回は、手肢の補助具アーム・スリングを使用しての使用経験を報告します。

ブラテンへの原紙付けの段階において、アーム・スリングを付けない場合より肘の動きが安定したが、タイム的には特別の変化はみられなかった。

つぎに、活字打ちの段階では、アーム・スリングを付けた場合と、付けない場合では、ほとんど変化はなくタイム的にも変化はみられなかった。

使用者に、アーム・スリングを付けての感想を聞くと、ブラテンへの原紙付けでは肘の動きがスムーズになるが、活字打ちでは、より一層の力が必要となり操作しにくいとの事であった。又、活字打ちのキーを一般のより5cmぐらい長くする事によって、活字打ちに必要な力が半減でき一層活字打ちがスムーズにできるようになった。

### 4) DMP児(者)の履き物の工夫

国立療養所宇多野病院

藤木 るり子 高橋 邦枝

山崎 カヅヨ

DMP児が、独立歩行から、車椅子使用の生活に移行する時期にある。不安定な歩行状況を、より安全で、より快適なものとし、生活行動範囲を拡げ、歩行困難に伴う、友人との遊離など、あきらめがちになりやすい患児に対し、精神面においても好ましい影響を与えることを目的に、はき物の工夫に着手した。

昨年度は、市販のはき物を試着し、重さ、材質、型などについて、検討を重ねた結果、DMP児が

に適した、はき物の条件が、わかった。

今回は、歩行の特徴を、より詳しく知る為足底部と床の接触面に着目して、調べてみた。

まず、当院入院患児、障害度3度～4度の7名を対象に、静止した時と、歩行時の足型を採り、比較してみたところ、大別して、3つの特徴が、表われた。

〔1例〕

歩行時、右足は外側に、左足は内側に重心が、かかっていた。これは、日常歩行器を使用し、上体を一方に、傾けている事と関連があると思われる。

〔5例〕

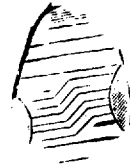
静止時より、歩行時のかかとの幅が狭く、尖足による歩行を示している。また、歩行時、足運びがスムーズに出来ず、指先を引きずった跡が見られた。

(図 1)

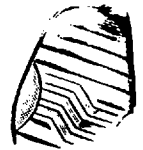
〔1例〕

前の5例に見られた尖足歩行と、足運びの悪い特徴がより顕著に表われている。(図1) 従って、前の5例も病状の進行に伴い、この様な型を示すものと考えられる。

そこで、いくつかの、はき物を本児が着用し、歩行した時の足型を採ってみた。



運動靴  
重さ 320g  
底の材質 合成ゴム



一般に、よくはかれている運動靴で、重量は320g と重く、底は合成ゴムのため歩行困難を訴えた。



バレシューズ  
重さ 200g  
底の材質 ゴム



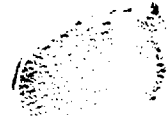
本児が、日常はいているバレシューズで、重量は 200 g、歩行時、脱げないよう、足首に、マジックテープを付けている。



体操シューズ  
重さ 30g  
底の材質 革



革製の体操シューズで重量は、100 g と軽い  
が、型に、ゆとりがないため着脱困難である。



体操シューズ (革)  
重さ 100g  
底の材質 ゴム

以上、三種類の靴を着用しての足型では、大きな差異は、見られなかった。

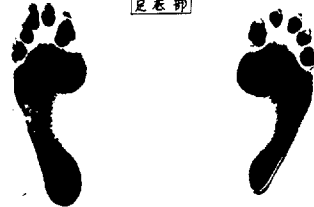
次に、体操競技用の靴では、重さも 30 g と非常に軽く、底の材質は皮で、一見して、わかるように素足の感触で歩行できた。

歩行時

この事から、DMP 児の微妙な歩行には底の材質として、薄い皮が、適している。また甲や側面は、薄いナイロンで、保温力が、劣るため、今迄この部分の材質を考慮の上、床の材質との関連も含め、前述のように患児個々の足型を把握することによって、滑り止めの必要な部分を知り、歩行状態に、適合したはき物を、さらに検討して行きたい。



足底部



D型・3歳・14ヶ月・男

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

DMP 児(者)が、独立歩行から、車椅子使用の生活に移行する時期にある。不安定な歩行状況を、より安全で、より快適なものとし、生活行動範囲を拡げ、歩行困難に伴う、友人との遊離など、あきらめがちになりやすい患児(者)に対し、精神面においても好ましい影響を与えることを目的に、はき物の工夫に着手した。